

九戸村

要望月日	要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
7月16日	<p>1 九戸インター工業団地への企業誘致促進について 九戸村を含む二戸公共職業安定所管内の有効求人倍率は近年改善傾向にあり、令和2年4月末現在の数値は全国平均と同数となっておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、県内経済や個人消費については悪化しつつある状況となっております。</p> <p>また、岩手県内の求人の動向を見ましても新規求人者数は4,875人で29.7%の減少（前年同月比）、就職件数も1,392件で25.6%の減少（前年同月比）となっており、岩手県内でも特に県北地域の雇用の受け皿が少ない現状においては、厳しい状況であり、労働力と人口の域外流出が加速しかねないと危惧しております。</p> <p>有効求人倍率（令和2年4月末現在） 二戸 1.32倍 岩手県 1.12倍 全国 1.32倍</p> <p><small>（新規求人者数、就職件数、有効求人倍率（全国、岩手県、二戸）いずれも岩手労働局職業安定部職業安定課発表（令和2年4月岩手県の労働市場）から抜粋）</small></p> <p>こうしたなか、岩手県におかれましては、平成29年度から県北広域産業力強化促進事業費補助金を創設し、県北広域地域の企業への支援、雇用の確保等につながる施策を実施していただき感謝申し上げます。県北地域における企業誘致や地元企業の産業競争</p> <p>さて、当村の九戸インター工業団地は、東北新幹線二戸駅と八戸自動車道九戸インターチェンジから沿岸地域に通じる主要地方道の途上にあって交通条件が整っていることに加え、村独自に企業立地促進事業補助金や工場設置奨励条例に基づく課税免除、利子補給、雇用奨励金などの立地支援制度を揃えております。</p> <p>村としましては、工業団地の立地条件の優位性を活かし、県当局の指導を仰ぎながら企業誘致活動に取り組んで参る所存ですので、九戸インター工業団地及び周辺地区への企業誘致につきまして、特段のご高配を賜りますようお願いいたします。</p>	<p>県では、「特定区域における産業の活性化に関する条例」等に基づく不動産取得税などの地方税の減免措置や、平成29年度から対象業種の拡大及び補助要件の緩和を行った企業立地促進奨励事業費補助制度をPRしながら、企業誘致に取り組んでいるところです。</p> <p>また、平成29年度に創設した県北広域産業力強化促進事業費補助制度を活用して、九戸村の食品加工業者が、2カ年にわたり設備投資を行うなど、具体的な成果も見られるところであり、今後より一層の地域全体の産業競争力を強化し、企業誘致につなげていきます。</p> <p>企業誘致は、地域の情報発信が重要であることから、県としても貴村と一体となって、情報共有や同行訪問など緊密な連携を図りながら、引き続き優良企業の誘致に取り組みます。(B)</p>	県北広域振興局	経営企画部	B：1

7月16日	<p>2 岩手県立二戸病院附属九戸地域診療センターの医療体制の充実について</p> <p>九戸村は令和2年4月1日現在の高齢化率が42.8%と、非常に高い割合で高齢化が進み、高齢世帯や一人暮らし世帯が増えてきており、村外への通院や入院対応が難しくなっております。九戸村地域福祉計画において取りまとめた住民要望でも、地域医療体制の充実を訴える声が多く、村民の切なる願いと受け止めております。</p> <p>岩手県におかれましては、慢性的かつ危機的な医師不足の中にあっても、岩手県立二戸病院附属九戸地域診療センターの外来診療体制を確保いただいておりますことに対し、深く感謝申し上げます。ただ、現在1名の常勤医師で運営していただいているところであり、何卒地域の実情をお汲み取りいただき、令和元年度九戸地域診療センター事業運営方針に示されている常勤2名確保及び常勤換算3名以上の診療体制を実現していただきますよう引き続き要望いたします。</p> <p>また、当村が進める地域包括ケアシステムに適合する地域包括ケア病床など、地域にあった形態の病床復活整備について引き続きご検討いただきますようお願い申し上げます。</p>	<p>九戸地域診療センターの常勤医師の確保については、派遣元である大学においても医師の絶対数が不足していることから非常に厳しい状況が続いています。</p> <p>県では、関係大学への派遣要請、即戦力となる医師の招聘活動、奨学金養成医師の計画的な配置などに積極的に取り組んでいるところであり、今後も必要な医療が提供できるよう医師の確保に取り組んでいきます。</p> <p>また、常勤医師の確保に加え、二戸保健医療圏内の他の県立病院からの応援により、診療体制の維持に取り組んでいるところであり、引き続き、他の病院からの応援により外来診療体制の充実に努めます。(B)</p> <p>九戸地域診療センターについては、本県の危機的な医師不足の中、限られた医療資源のもとで良質な医療を提供するため、平成21年4月に病床を休止したところであり、こうした状況については現在も変わらないものと認識しています。このため、地域包括ケア病床を含めた病床の再開は、依然として難しい状況ですが、平成29年4月に県立軽米病院、平成31年4月に県立一戸病院、令和2年1月に県立二戸病院に地域包括ケア病床を設置するなど、二戸保健医療圏の地域包括ケアシステム構築の取組に参画しているところであり、今後も県立病院として関係機関と連携しながら取り組んでいきます。(C)</p>	県北広域 振興局	保健福 祉環境 部	B : 1 C : 1
-------	---	--	-------------	-----------------	----------------

7月16日	<p>3 国道340号の歩道整備について</p> <p>国道340号の歩道設置につきましては、鋭意整備を進めていただいております。村内各地区の歩道整備の完成により、当該地区住民の交通安全が確保されております。村内各地区の整備にご尽力いただきました県当局、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。</p> <p>しかし、村内の国道340号には歩道が未整備となっている地区（戸田、伊保内（鹿島）、小倉、長興寺上、道地）があり、具体的な整備計画が示されておられません。</p> <p>これらの区間はいずれも小中学校の通学路に指定されるとともに、地区住民の生活道として利用されておりますが、幅員が狭いことから歩行スペースが確保できず、歩行者にとりまして危険な状況となっております。</p> <p>つきましては、地区住民の交通安全確保、道路環境向上のため、歩道未設置区間を早期に解消されますよう要望いたします。</p>	<p>歩道整備については、各地域から多くの要望があることから、地域の意向も踏えながら必要性や緊急性、熟度の高い箇所から整備を進めています。</p> <p>御要望の区間については、早期の事業化は難しい状況ですが、長興寺上（ちょうこうじかみ）地区については、令和2年度、歩道整備計画検討のための調査を実施しました。また、令和3年度からは詳細設計を行う予定であり、早期整備に向け取り組んでいきます。（A）</p> <p>歩道整備については、今後の交通量の推移、地域の沿道状況や県全体の進捗等を踏まえて総合的に判断していきます。（C：4）</p>	県北広域 振興局	土木部	A：1 C：4
-------	--	---	-------------	-----	------------

7月16日	<p>4 国道340号の改良整備について</p> <p>国道340号は九戸村の幹線道路であり、物資の輸送路や通勤通学路としての役割を担うとともに、平成24年度からは復興道路としての役割も加わり、より「安全」の確保が求められるとともに「交通ネットワーク」に欠かせない重要な路線としての位置づけとなりました。</p> <p>その中で、県北横断ルート的主要地方道二戸九戸線と国道340号が交差する長興寺下地区につきましては、平成30年度から工事着手され、令和元年度の工事完成により安全で安心な通行が確保されております。</p> <p>しかし、当村の中心地であり、商業地となっている伊保内地区は通学路となっているにも関わらず、旧規格のままで幅員が狭く「いわて第2クリーンセンター」への廃棄物運搬車など増加傾向にある大型車両のすれ違いに苦慮しており、通学の際の児童・生徒及び高齢者に不安を抱かせる状況となっております。</p> <p>さらに、当村の北部に位置する小田沢地区の一部区間は急カーブで見通しが悪いため、特に冬期間はスリップ事故等が発生し危険な状況となっております。</p> <p>伊保内地区につきましては、大型車両に対応した幅員の確保と、子供たちや高齢者が安心して通学・買い物できる道路環境の整備を早期に実施していただきますよう要望いたします。</p> <p>あわせて、小田沢地区につきましては、急カーブを解消し安全に通行できる線形への道路改良等、地区の状況に対応した整備を早期に実施していただきますよ</p>	<p>○伊保内（いぼない）地区</p> <p>伊保内地区の大型車両に対応した幅員の確保等については、早期の整備は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。（C）</p> <p>○小田沢（こださわ）地区</p> <p>小田沢地区については、急カーブ区間の安全対策も含め、早期の整備は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業費の動向等を見極めながら総合的に判断していきます。（C）</p>	県北広域 振興局	土木部	C：2
-------	---	---	-------------	-----	-----

7月16日	<p>5 二級河川瀬月内川の河川改修について</p> <p>二級河川瀬月内川の改修につきましては、一般河川改修事業や総合流域防災事業等により整備いただき、また河道掘削や支障木の伐採等の維持管理も継続的に実施いただきまして深く感謝申し上げます。</p> <p>また、たびたび発生する洪水災害の復旧につきましても早急な対応をいただいているところです。</p> <p>しかし、流域のなかには依然として台風や大雨による増水時の氾濫が憂慮される場所が多数見受けられます。平成28年8月に本県を襲った台風10号は、瀬月内川流域でも建物の浸水や農地への冠水被害をもたらしました。</p> <p>今後の重大災害の発生を未然に防止するためにも、早期に河川改修整備を進めていただくとともに、河道掘削、支障木伐採等についても継続して実施していただきたく要望いたします。</p>	<p>瀬月内川における河川改修については、沿川の土地利用状況や家屋の近年の浸水被害実績などを踏まえ、事業導入の可能性について引き続き検討していきます。(C)</p> <p>また、昨年度は浸水被害の軽減のため、国が策定した「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」による国費を活用し、河道掘削や立木伐採を実施しました。今後も河川巡視等により河川状況を把握しながら必要に応じて河道掘削等を行うなど、適切な維持管理に努めていきます。(A)</p>	県北広域 振興局	土木部	A : 1 C : 1
-------	---	---	-------------	-----	----------------

7月16日	<p>6 岩手県立伊保内高等学校の存続について</p> <p>地域振興にとって人材の育成は重要であり、高校は地域の将来や均衡ある県土発展の見地からも必要不可欠のものであると認識しております。地域の高校が無くなるということは、就学の道が閉ざされるだけでなく、地域の活力にも影響を与え、村の存亡に関わると危惧しております。</p> <p>県立伊保内高等学校は小規模校ながら地元出身者を中心に大学進学や就職、部活動、村内イベントへの参加や奉仕活動など地域貢献活動を活発に行い、魅力に満ちた学校づくりを進め、大きな実績を上げており、村内外から高い評価をいただいております。</p> <p>「新たな県立高等学校再編計画」の後期再編プログラムでは、令和7年度まで伊保内高等学校の存続が図られたとはいえ、平成29年度入学生より1学年1学級となり、教職員も減少しております。</p> <p>村としましても、これまで以上に支援を強化し、生徒の確保に努めて参りますので、一学年一学級の配置校に対し、生徒の多様な進路実現等に対応するため、標準法によらない教員加配を行うなど、小規模高等学校の学校経営の充実が図られるようお願いするとともに、今後詳細が検討される後期計画においても伊保内高等学校の存続と、今後、学校規模により子どもたちの進路選択、進路実現に差が生ずることのないよう、小規模校教育の質の確保について特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。</p>	<p>伊保内高校の教職員については、「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律（標準法）」に基づいたうえで、学校の実情等を考慮し配置しています。また、近隣の高校の教員との兼務によって、生徒の教科・科目選択の幅を狭めないよう対応しており、今後も、国の標準法に基づきながら学校の特色、現状等を勘案して教職員配置を検討していきます。（B）</p> <p>令和3年2月に公表した「新たな県立高等学校再編計画後期計画」（最終案）では、教育の質の保証と機会の保障に加え、「生徒の希望する進路の実現」と「地域や地域産業を担う人づくり」を基本的な考え方としています。</p> <p>伊保内高校のような1学年1学級校（以下「1学級校」という。）の存在が地方創生の推進に重要な役割を果たしている地域では、自治体と連携した教育活動の充実が進められている現状も踏まえ、後期計画期間中において一定の入学者のいる1学級校を維持することとしています。</p> <p>また、1学級校を含む小規模な学校においても生徒の進路希望の実現に対応できるよう教育環境を整備し、ICTの活用等による教育内容の充実を図っていきたいと考えています。（B）</p>	県北広域振興局	県北教育事務所	B：2
-------	--	--	---------	---------	-----

7月16日	<p>7 九戸政實公をPRする広域的取り組みの推進について</p> <p>九戸政實公は、戦国時代に当地一帯を勢力下に治め、豊臣秀吉の天下統一に最後まで抗した郷土の英雄です。</p> <p>九戸村では、平成3年の政實公没後400年まつりの開催を機に政實公を顕彰しようとする機運が高まり、関連資料冊子の作成や政實太鼓の結成、功績を知るための学習会などが行われてきました。県北広域振興局二戸地域振興センターにおかれましても、「九戸政実プロジェクト」と銘打った事業のなかで、イベントやツアーの開催、九戸政実武将隊の結成、ガイドブックの発刊など、多彩な事業を展開されているところがあります。</p> <p>しかしながら、最近では事業予算、事業数とも関連する取り組みが縮小してきていることは否めず、この傾向は残念ながら本村でも同様の状況となっております。</p> <p>政實公に縁のある史跡や武功は、本村のみならず岩手県北から青森県南、秋田県北まで広く残されており、広域的な取り組みとともに更に継続していくことが重要であると考えておりますので、関連事業の積極的な推進について要望いたします。</p>	<p>戦国時代末期、豊臣秀吉に反旗を掲げて戦った九戸政実(つ)は当地域の英雄であり、その姿は本県在住の高橋克彦氏の『天を衝(つ)く』などで描かれています。</p> <p>当地域には、九戸城跡や九戸神社など政実ゆかりの歴史的な観光スポットが数多く残されており、九戸城ボランティアガイドの会などの民間活動も展開されてきたところです。</p> <p>県北広域振興局では、こうした地域資源を活用した地域活性化と観光振興の取組が重要と考え、行政、民間と連携して平成25年度に「九戸政実プロジェクト」を立ち上げ、取組を進めてきたところです。</p> <p>こうした中、県内外での九戸政実や九戸城の情報発信に取り組むとともに、平成29年には九戸城が公益財団法人日本城郭協会による「続日本100名城」に選定されたことを好機と捉え、旅行会社が主催する城めぐり(長興寺、九戸神社(九戸村)等のゆかりの地)ツアーの支援等を行っています。</p> <p>また、平成30年度に策定した県の「みちのく岩手観光立県第3期基本計画」においては、「北いわての特性を生かした誘客の促進」に取り組むこととしており、全県版観光パンフレット「いわて幸せ大作戦!!」での九戸城跡の紹介や、いわて観光キャンペーン推進協議会で設置している観光コーディネーターの現地訪問及び助言を通じた観光コンテンツの磨き上げ支援により、地元市町村等と連携した旅行商品の造成に取り組んでいるところです。</p> <p>地域活性化についても、二戸市民文士劇や九戸城まつりの開催、九戸政実武将隊によるイベント出演や地域PRなど、当該プロジェクトを核とする地域の歴史の再認識、地域への誇りと愛着を抱く機運の醸成などに取り組んでいるところです。</p> <p>今後においても、歴史的・文化的に深いつながりがある県外の地域とも連携のうえ、歴史資源を活用した地域活性化と観光振興に市町村とともに取り組んでいきます。</p>	県北広域振興局	経営企画部	A: 1
-------	---	--	---------	-------	------